令和３年３月17日

資料４

練馬区食育推進ネットワーク会議資料

第７期　「若い世代」への食育の取り組みについて

≪第７期　１年目≫

１　検討内容　【若い世代に向けての食育の取組の検討】

（１）アプローチするターゲットの検討・目指す姿の共有

　　　生活が変わる時期（一人暮らし開始時、結婚、妊娠時など）を迎える若い世代にターゲットをしぼり、アプローチをしていくと行動変容しやすいと想定される。また、「（仮）胃袋をつかむメシ」等の調理実習を企画し、一緒に作る体験ができる事業が効果的ではないか。

　（２）若い世代に直接アプローチするための具体的な取組の検討

　　　　　若い世代があつまるイベントへの参加、「練馬らしさを」が出るようなイベント（ねりまの食育応援店を活用したマルシェのようなもの）の検討、「ちゃんとごはん」の若い世代バージョンや、保健相談所の食育事業とのコラボなどが検討された。

２　成果

　（１）ねりまde女子マルシェでのアプローチ

　　　女子マルシェに来場した若い世代に向けて、区の食育の取組の紹介を行った。

　（２）ちゃんとごはんの拡充

　　　当初小学生対象に実施してきた食育推進ボランティアとの協働事業ちゃんとごはんについて、乳幼児保護者に対象を拡げて広く周知し、令和元年度は6回実施した。

３　第７期２年目に向けて

　　練馬区健康づくりサポートプラン「６　地域と取り組むねりまの食育（練馬区食育推進計画）」に掲げた主な取組を含め、若い世代に向けた具体的なアプローチ方法について引き続き検討する。

≪第７期　２年目≫

１　検討内容

　　新型コロナウイルス感染症のため、食育イベントなど食に関する事業が状況であったため、具体的な事業の実施には至らなかった。

第８期に向けて、若い世代の食育について日本女子大学と連携していくため、若い世代の食育への意識等、現状をアンケートの実施や学生自体が企画にかかわって事業を実施していくことを検討した。

また、７期２年目は部会活動だけでなく、ねりまの食育応援店部会と合同で活動した。

２　成果

　（１）オンライン「ちゃんとごはん」

　　　対面での事業および飲食に関する事業については、令和２年度に実施することはとても難しい状況だった。そこで、オンラインを活用した「ちゃんとごはん」を検討し、実施した。オンラインでの実施では、子供が調理の最初から最後まで一人で携わることができ、「食の自立」を目指すには好評であったが、周知については課題が残った。

≪第８期に向けて≫

　　日本女子大へアンケートの協力依頼をしていく。項目は基本日本女子大学が作成しているアンケートを中心に、食育についての項目を入れて実施を検討している。また、その結果から、若い世代に向けた食育事業（学生による企画）を検討していき、実施に結びつけていく。

　　また、小学生対象の「オンラインちゃんとごはん」については、小学校との連携も検討していきたい。さらに、周知方法なども検討しながら実施していく。